

公益社団法人 日本臨床細胞学会
2017年度第3回理事会議事録

日時：2017年11月18日（土）7:30～9:30

場所：福岡国際会議場 第5会場

資料：2017年度第3回理事会議題資料、2017年度第3回理事会資料集、当日配布資料_子宮頸がん検診報告様式の新旧、当日配布資料1_細胞検査士委員会、当日配布資料2_渉外・広報委員会1、当日配布資料3_渉外・広報委員会2、当日配布資料4_2019-2020年度役員選挙スケジュール案、当日配布資料5_細胞検査士委員会2

役員総数：41名（理事 38名，監事 3名）

出席総数：理事 35名

（理事）青木 大輔，石井 保吉，板持 広明，伊藤 潔，伊藤 仁，稲山 嘉明，井上 健，植田 政嗣，榎本 隆之，小笠原 利忠，岡本 愛光，小田 瑞恵，加来 恒壽，加藤 久盛，川本 雅司，九島 巳樹，小松 京子，齋藤 豪，佐藤 之俊，白石 泰三，竹島 信宏，都築 豊徳，寺本 勝寛，長尾 俊孝，中村 直哉，羽場 礼次，広岡 保明，藤井 多久磨，前田 一郎，三上 芳喜，森井 英一，森谷 卓也，八重樫 伸生，山城 勝重，横山 正俊

（顧問）長村 義之

（監事）佐々木 寛，土屋 眞一

（総務委員会幹事）小倉 豪，三宅 康之，山下 博，和田 直樹

（制度審議委員会委員陪席）平田 哲士

（名誉会員陪席）覚道 健一，柏村 正道，金城 満，小塚 正雄，坂本 穆彦，東岩井 久，平井 康夫，前田 昭太郎，安田 允，若狭 研一

欠席者：

（理事）池田 徳彦，生水 真紀夫，内藤 善哉

（監事）長谷川 壽彦

理事長挨拶・報告（青木大輔）

2017年度第3回理事会開会挨拶が行われた。当日配布資料を用いて子宮頸がん検診報告様式の新旧に関して報告が行われた。若干修正される可能性はあるが、平成30年度までの旧様式での把握を平成31年度以降の新様式に計上する場合の読み替え方法について説明が行われた。

第56回秋期大会会長挨拶・副理事長報告（加来恒壽）

第56回秋期大会会長挨拶が行われた。認定試験業務・検査士案件・教育について滞りなく進める旨の報告が行われた。

副理事長報告（植田政嗣）

サブスペシャリティに関して目立った動きはないが、今後も専門医機構の動向を注視する旨の報告が行われた。教育研修指導医の認定状況に関する報告も行われた。

副理事長報告（佐藤之俊）

総括・財務を担当し、渉外についても滞りなく進める旨の報告が行われた。

2017年度（2017年10月18日時点）総務庶務報告（森井英一）

全会員数：12,292名

（正会員 5,555名、準会員 6,490名、名誉会員 42名、功労会員 184名、図書会員 21件）

細胞診専門医および細胞診専門歯科医数：2,860名（実数）

（認定：細胞診専門医 3,404名、細胞診専門歯科医 55名）

FIAC：105名 MIAC：30名

細胞検査士数：7,432名（実数）（認定9,558名）

CT(IAC)：4,744名

物故会員（2016年11月8日～2017年10月18日）

名誉会員	工藤 隆一	殿	
功労会員	澤田 好明	殿	（沢田医院）
	平田 守男	殿	（(株)ケーアイエー細胞病理研究所 細胞病理）
正会員	五百部 浩昭	殿	（東京医科大学 人体病理学分野）
	今中 信弘	殿	（井上記念病院 外科）
	片山 正一	殿	（(医)蒼龍会井上病院 医局）
	佐藤 信二	殿	（医療法人社団S・Sレディースクリニック）
	高橋 直樹	殿	（エルム女性クリニック）
	濱崎 周次	殿	（川崎医科大学 病理学教室I）
	肥田木 孜	殿	（平松学園大分臨床検査技師専門学校 校長）
	平尾 潔	殿	（平尾産婦人科医院）
	藤本 高久	殿	（藤本小児科・内科・産婦人科クリニック）
準会員	大瀧 清介	殿	
	川岸 克博	殿	（NTT東日本関東病院 病理診断部）
	鎗田 彌一	殿	

黙祷

大会報告

第58回春期大会（植田政嗣、大阪国際会議場、2017年5月26日（金）～28日（日））は参加人数5,589名と盛会であった。

大会準備状況

第59回春期大会（齋藤豪、札幌ニトリ文化ホール、2018年6月1日（金）～3日（日））、第57回秋期大会（中村直哉、パシフィコ横浜、2018年11月17日（土）～18日（日））、第60回春期大会（竹島信宏、京王プラザホテル・NSイベントホール、2019年6月7日（金）～9日（日））、第58回秋期大会（森谷卓也、ホテルグランヴィア岡山・岡山コンベンションセンター、2019年11月16日（土）～17日（日））に関して、それぞれ準備状況の報告が行われた。

2017年度第2回理事会議事録確認

前回議事録の確認を行った。

総務委員会（委員長 森井英一）

〔報告事項〕

1. 常務理事会・理事会資料のフォーマットを変更した。
2. 2013年度から2016年度の会計内容が神田税務署によって確認され、学術集会で未払いであった個人会社への謝金等の追徴課税が発生し、618,879円を追徴課税分として納付した。
3. 当学会が外部業者扱いにしていた顧問である池上氏について、神田税務署より社員扱いにするようにとの指摘があり2013年～2016年分の源泉について追徴課税が行われた。

〔審議事項〕

1. 2017年度・2018年度会議開催時間設定について

2017年度・2018年度の会議開催時間案が提示され、可決された。

2. 細胞診の自己採取について

検診に関わる婦人科医数が充分でないため行われる細胞診の自己採取では偽陰性が増えてしまう。日本人間ドック学会や日本婦人科がん検診学会で、精度の高い検診を行うべく、この問題を解決するための論議が行われている状況を踏まえ、当学会は本案件を継続審議にすることとした。

3. 学会事務局員の退職金積立金増額について

事務局職員の将来の退職時に積立金が不足する見込みであるため、現状より毎年の積立金を100万円増額し毎年200万円ずつ積み立てることが提案され、可決された。

4. 学会事務局員の福利厚生費（慶弔金見舞金）について

慶弔見舞金比較表・慶弔見舞金支給要綱(案)が提案され、当学会の収支状況を踏まえながら継続審議にすることとした。

5. ロゴマーク使用について

公益社団法人日本臨床細胞学会ロゴ使用許可申請書（案）が提案され、一部修正のうえ可決された。

6. 症例報告における個人情報の取り扱いについて

症例報告における患者情報保護に関する指針の改定案が提案され、その内容に則って取り扱うことが可決された。

情報処理委員会（委員長 伊藤仁）

〔報告事項〕

1. 情報開示の要請、ホームページへの掲載願いの対応を行った。
2. 会員種別・地域連携組織別マイページログイン率
3. バナー広告について、他学会の運営方法・規則や広告案内等について検討中である。
4. ホームページにICC 2019のバナーを追加した。

※ 報告後、地域連携組織への未所属数が多いことに関して、先ず、学会員にマイページへログインのうえ御自身の所属情報を確認して頂くよう呼び掛けてはどうかとの指摘があった。この呼び掛けはマイページログイン率の向上にもつながるのではないかと指摘された。また、地域が変わった際の所属変更手続き・所属情報修正に漏れがあるのではないかと指摘された。そして、専門医等の資格試験合格通知時に地域連携組織への所属申込用紙を送付する等の対策を講じてはどうかとの指摘があった。

〔審議事項〕

1. 学会ホームページの更なる改善について

学会ホームページの改善内容案（以下①～④）と改善費用の見積もり（28,215円）が提案され、可決された。

- ①各種研修会：研修会をまとめサイドメニューの作成。「お知らせ」からも「各種研修会」サイドメニューからもアクセスできるようにする。
- ②論文投稿：アクセスをより容易にするため、現在は刊行物の中にある部分を独立したサイドメニューにする。
- ③細胞診画像：「お知らせ」のみではなく、独立した「細胞診画像」サイドメニューを作成し、その中にリンク先を表示する。

④検索機能：学会ホームページ内検索機能をトップ画面の分かり易いところに作成する。

2. 各都道府県臨床細胞学会（地域連携組織）と本会との情報共有について

個人情報保護の観点から、当学会と各都道府県臨床細胞学会で学会員の情報を共有することについて学会ホームページ等で学会員に周知し、新規に入会する学会員には入会時にその旨を通知するようにしたうえで、本案件が可決された。

学術委員会（委員長 中村直哉）

〔報告事項〕

1. 学会賞・技師賞・班研究課題の選考委員会を2017年9月22日（金）に日本臨床細胞学会会議室において開催した。応募数は、学会賞1名、技師賞（学術部門）4名、技師賞（功労部門）2名、班研究課題2件であった。選考結果は、学会賞が該当無し、技師賞（学術部門）が池田聡 氏、技師賞（功労部門）が及川洋恵 氏、班研究課題が該当無しであった。

2. 最優秀論文賞の応募について

2017年11月頃よりイエローページおよびホームページにて応募要項を掲載予定。応募期間は2018年1月中旬から2月を予定。

※ 報告後、学会賞候補者を2018年春期大会までに再度選考する方針が確認された。

〔審議事項〕

1. 班研究課題選考に関する施行細則について

班研究課題選考に関する施行細則の改定案が提案され、一部修正のうえ可決された。「5. 主任研究者が在籍する施設において研究臨床審査委員会等の許可を得たか～」の記載内容を「5. 主任研究者が在籍する施設において倫理委員会等の許可を得たか～」に修正することとした。

2. 学術委員会に置かれた「学術集会のあり方検討ワーキンググループ」の提案について学術集会のあり方・申し合わせ（案）が提案され、可決された。

計理委員会（委員長 岡本愛光）

〔報告事項〕

1. 秋の監査会を2017年9月19日に行った。秋の監査会では、春の大会の会計報告の確認が行われる。第58回日本臨床細胞学会総会（春期大会）大会事務局より、2017年9月15日現在までの会計報告が行われた。作業が終わり次第、領収書および報告が事務局に提出される予定である。

2. 学術集会の会計について、マニュアルがないまま各々の大会事務局で会計作業が行われている。源泉調査の際に指摘された点の修正と各大会事務局で会計作業を統一するためにマニュアルを作成したほうがよいという意見があり、マニュアル案の作成を中田公認会計士事務所をお願いした。作成された案（学術集会に関する大会計理マニュアル案）については、制度審議委員会による確認もお願いした。

〔審議事項〕

1. 学術集会の会計に関するマニュアルについて

学術集会収支報告に関する施行細則の改定案、学術集会に関する大会計理マニュアル（案）が提案され、一部修正のうえ可決された。学術集会に関する大会計理マニュアル（案）で「収支予算書を各大会開催年度の前事業年度の12月末までに本法人に提出しなければならない」としていることに関して、学術集会のあり方・申し合わせ（案）で「予算案を1年前の理事会に提出する」となっていることと整合性をとることになった。また、学術集会関連マニュアルで学術集会の会場規模について定める必要性が指摘された。

編集委員会（委員長 竹島信宏）

〔報告事項〕

1. 投稿論文（2017年9月25日時点）

2014年投稿論文数：113 2014年投稿論文採用率：77.0

2015年投稿論文数：75 2015年投稿論文採用率：70.7

2016年投稿論文数：79 2016年投稿論文採用率：65.8

2017年投稿論文数：43 2017年登録論文採用率：51.2

投稿論文数が減少傾向にあるものの、一定の水準に達していない論文は採用しないという方針のため、近年、採用率は低くなっている。

2. 株式会社 メテオ メディカルオンライン学会誌配信作業の完了

3. 2017年日本臨床細胞学会雑誌56巻4号の発刊

4. 全評議員を査読者として登録している。理事は査読者から外しているが、理事で査読者の登録希望があれば登録する。

5. 依頼原稿の依頼作業と入校作業2件

〔審議事項〕

1. Acta Cytologica on line会員加入について

Karger社からの最終提案では、CHF23000（日本円で約250万円）と前回と同じであった。「JSCC会員が5772名（内224名IAC会員）でIAC会員224名を除いてJSCC会員5548名でCHF23000を割れば一人当たり年間CHF4.15（約480円）で雑誌が閲覧できる。一冊当たりCHF0.70（80円）で購読できるのでかなりお安い提案である」という説明であった。ただし、編集委員会の見解は約250万円払って加入することに消極的であり、当学会として、今は加入せずに（約250万円払わずに）様子を見る方針となった。

2. イエローページを廃止し、必要な情報は直接ホームページと連結し、重要なものについてはメール配信とすることについて

編集委員会、情報処理委員会、渉外・広報委員会で継続審議にすることとした。なお、理事には、イエローページの情報に関して、理事の委員会に関係する項目だけではなく全項

目を配信することになった。

細胞診専門医委員会（委員長 齋藤豪）

〔報告事項〕

1. 教育研修指導医新規申請者の書類不備の連絡作業と2016年秋期大会中のセミナー参加者のうち暫定認定されている教育研修指導医の認定作業を行っている。
2. 2017年細胞診専門医資格更新対象者の更新完了。
3. 細胞診断学セミナーのあり方について検討し、セミナー講師の意見を参考に細胞診専門医資格認定試験を作成することにした。
4. 2017年9月24日（日）第2回細胞診専門医委員会開催（2017年細胞診専門医資格認定試験受験審査会）。

願書請求者数：152（新規122人、審査済30人）

実出願者数

新規：117（病理医67人、病理医以外50人 審査料納入済み）

審査済み：29

合計：146

受験科目内訳

総合科：140（新規111人、審査済29人）

歯科口腔科：6

【審査会審査結果】

実出願者の1名が規定論文数を満たしておらず受験不可。また職歴無記載の出願者は追加書類の提出とする。

受験可能者数

新規：116（病理医67人、病理医以外49人）

審査済み：29

合計：145

5. サイトパソロジスト試験は3名の受験者が合格した。
 6. E-learningの原案を2017年2月の委員会で検討した。E-learningについて学会員にホームページで周知する。
 7. 第56回秋期大会における指定講座はどの講座かについての確認報告。
- ※ 報告後、細胞診断学セミナー講師の意見集約を学術集会期間中に行う方針が確認された。

〔審議事項〕

1. 英語版細胞診専門医資格証明証のデザイン案が提示され、このデザインで作製された英語版資格証明証を発行することが可決された。
2. 専門医の名簿をホームページに掲載することについて掲載の可否を専門医に確認して名前のみを掲載する方針が可決された。

3. 細胞診専門医資格認定試験施行細則における関連学会の専門医の定め方について
細胞診専門医資格認定試験施行細則の改定案が提案され、可決された。関連学会の専門医については、現状、明文化された内規は存在しないため、「専門医委員会の内規に定める」ではなく「別に定める」とした。
4. 専門医更新は5年ごとであるが専門医会総務会の規定では4年のままになっていたの
で、これを修正することが提示され、可決された。

施設認定制度委員会（委員長 長尾俊孝）

〔報告事項〕

1. 2016年度新規施設認定について

2017年3月31日締め切りとし、申請施設は8施設あった。2017年5月に審査会を行い、審査の結果、認定条件を満たしていない1施設は申請辞退となった。他7施設を認定した。

新規認定施設：宮崎大学医学部附属病院、上尾中央総合病院、社会福祉法人恩賜財団大阪府済生会茨木病院、社会医療法人仁愛会浦添総合病院、社会医療法人大雄会総合大雄会病院、医療法人徳洲会八尾徳洲会総合病院、公益財団法人鹿児島県民総合保健センター

2. 2016年度新規教育研修施設認定について

2017年3月31日締め切りとし、申請施設は1施設あった。2017年5月に審査会を行い、審査の結果、1施設（藤沢市民病院）を認定した。

3. 2016年度施設年報提出状況（2017年10月12現在）

全847認定施設中 提出済：787施設（92.9%）、未提出：60施設（7.1%）

4. 2016年度教育研修施設年報提出状況（2017年10月12日現在）

全319認定施設中 提出済：296施設（92.8%）、未提出：23施設（7.2%）

5. 2016年度認定施設更新状況（2017年9月6日現在）

対象施設 69施設

更新可：56施設（81.2%）更新可として新認定証を送付済

未完了：3施設（4.3%）、未申請：7施設（10.1%）、辞退：3施設（4.3%）

6. 2016年度教育研修施設更新状況（2017年7月20日現在）

対象施設 55施設

更新可：47施設（85.5%）更新可として新認定証を送付済

未完了：3施設（5.5%）、辞退：5施設（9.1%）

7. 内部精度管理（実地調査）について

2017年度実施調査は、内部精度管理ワーキンググループ（山城勝重 WG 長）のもとで4施設を対象として実施（2017年8月・9月中）。結果は、全施設とも「良」。

対象施設：八戸赤十字病院、日本医科大学附属多摩永山病院、富山県立中央病院、公益財団法人鹿児島県民総合保健センター

細胞検査士委員会（委員長 加藤久盛）

〔報告事項〕

1. 2017年度（第50回）細胞検査士資格認定試験

志願者総数は848名で、このうち206名が1次試験免除のため1次試験の志願者数は642名となった。1次試験は2017年10月28日に大阪はCIVI研修センター新大阪東、東京はTKP 市ヶ谷カンファレンスセンターにおいて実施。2次試験は2017年12月9日・10日に東京富士大学において実施する予定。

2. 2017年度細胞検査士試験問題作成委員会

2017年7月17日、2017年8月20日、2017年9月10日の3回にわたり、委員会を開催して筆記試験および細胞像試験の問題を作成した。

3. 2017年CT（IAC）資格認定試験

2017年6月25日、TKP 品川カンファレンスセンターANNEXにおいて実施した。127名が受験し、127名全員が合格した。

4. 細胞検査士教育研修要項の必要性についての委員会検討報告

専門医では教育研修要項が作成されているので、検査士教育研修要項が必要ではないかという理事会からの意見があり当委員会で検討した。専門医の教育研修要項は、日本専門医機構からの要請もあり作成に至った背景があるが、細胞検査士についてはそのような背景はなく、過去問の開示などがあるなどを考慮して現状維持を支持する意見が多数であった。また試験問題作成を依頼する際、学会で作成した細胞診ガイドラインに準じて作成するように依頼して範囲及び内容の維持を保たせたいとの意見であった。

〔審議事項〕

1. 第51回細胞検査士資格認定試験からの受験料値上げについて

2017年・2018年の細胞検査士資格認定試験収支試算および2014年～2016年の細胞検査士資格認定試験収支が説明された後、収支健全化のため受験料を37,500円から40,000円（税込み）に値上げすることが提案され、可決された。

2. 学校法人関西医療学園からの細胞検査士養成課程申請の依頼に対する審議について

当日配布資料を用いて関西医療学園から申請された教育課程・施設設備・運営方法の詳細が提示され、審議した結果、関西医療学園を細胞検査士養成機関として認定し、その課程修了者に当学会主催の細胞検査士認定試験受験資格を与えることとした。これにともない関連する会則等も変更されることになった。

細胞検査士資格更新審査委員会（委員長 羽場礼次）

〔報告事項〕

1. 2016年細胞検査士資格更新処理状況（2017年10月30日時点）

2016年度細胞検査士資格更新者（グリーンカード） 全更新対象者数：1786人

更新完了者：1681人（94.1%） 条件付き更新完了者：29人（1.6%） 保留更新（海外在住者）：2人（0.1%） 未申請：14人（0.8%） 更新辞退・退会者：60人（3.4%）

2. 2017年度細胞検査士資格更新対象者メンバー（グレー） 更新予定者：1819人
0001～0008、0009～0068、0195～0272、0440～0584、0913～1060、1354～1557
2259～2457、3120～3457、4210～4452、5135～5349、6051～6203、6749～6943
7686～7876、8613～8869

*2018年2月～3月に更新審査予定

教育委員会（委員長 生水真紀夫 代理 石井保吉）

〔報告事項〕

1. 2017年度の予定は順調に行われている。

講習会	開催日	開催地・実施委員長
第126回細胞検査士養成講習会	2017年7月3日（月）～15日（土）	東京医学技術専門学校：東海大学医学部・伊藤 仁
第42回細胞診断学セミナー	2017年8月3日（木）～6日（日）	東京医学技術専門学校：教育委員長
第73回細胞検査士教育セミナー	2017年8月19日（土）～20日（日）	パシフィコ横浜メインホール：大塚 重則
第74回細胞検査士教育セミナー	2017年9月9日（土）～10日（日）	学校法人加計学園倉敷芸術科学大学：三宅 康之
第74回細胞検査士ワークショップ	2017年7月22日（土）～23日（日）	コラッセふくしま：原田 仁稔
第75回細胞検査士ワークショップ	2018年2月10日（土）～11日（日）	京都大学：白波瀬 浩幸

2. 2018年度決定済みの予定

講習会	開催日	開催地・実施委員長
第127回細胞検査士養成講習会	2018年7月2日（月）～14日（土）	東京医学技術専門学校：伊藤 仁
第43回細胞診断学セミナー	2018年8月9日（木）～12日（日）	東京医学技術専門学校：教育委員長
第75回細胞検査士教育セミナー	2018年8月25日（土）～26日（日）	パシフィコ横浜メインホール：加藤 拓
第76回細胞検査士教育セミナー	2018年9月8日（土）～9日（日）	アクロス福岡 イベントホール：阿部 英二

渉外・広報委員会（委員長 小田瑞恵）

〔報告事項〕

1. 日本がん治療認定医機構事務局より「2017年度教育セミナー」の「セミナー聴講」に関する周知依頼を受け、この周知を行った。
2. 日本医学会より「第30回日本医学会総会2019中部」の告知依頼を受け、バナー設置等の対応をした。
3. 日本医学会分科会の用語代委員の引き継ぎを行った。
4. 一般財団法人医療関連サービス振興会の役員担当を前委員長から引き継ぎ、調査指導中央委員会、衛生検査所専門部会（加戸伸明委員出席）に出席した。衛生検査所の医療サービスマーク認定に関わる審査を行った。
5. IACメンバーへ“Acta CytologicaのImpact Factor(IF)奪還のための署名(Petition)”一斉メールの依頼を受け、許可した。
6. イエローページに掲載している年間情報について、一覧を作成した。今後、イエローページ記載追加項目を各委員会から集約する。

〔審議事項〕

1. 現在、他学会との共催・協賛・後援に関する規定や、周知・告知の対応、他学会への会議出席等、内規がないため制度審議委員会と相談し、内規を作成する予定について可決された。
2. 子宮の日無料配布冊子（冊子名「まもること」）の作成・印刷を、2019年から日本臨床細胞学会が請け負うか否について
当日配布資料を用いて詳細が説明され、毎年、少なくとも350万円かかることが報告された。渉外・広報委員会の見解は、協賛金等の協力なら可能かもしれないが、学会事業として冊子を作製しないこととなった。しかしながら、当学会として子宮の日等の活動のあり方について継続審議にすることとした。

社会保険委員会（委員長 稲山嘉明）

〔報告事項〕

1. 2017年7月24日に厚労省ヒアリングがあり、①セルフブロック法、見直し、②婦人科頸部細胞診陰性標本、自動判定支援加算（精度管理加算）について説明した（青木理事長、佐々木寛前理事長、稲山）。
2. 内保連から、内保連における委員会への加盟状況についてのアンケート調査がきた（2017年9月）。社保委員会での審議ならびに理事長に諮り、本学会としては、従来通り、病理関連委員会（主たる活動委員会）、悪性腫瘍関連委員会、女性診療科関連委員会、検査関連委員会に継続加盟したい旨を回答した。

地域連絡委員会（委員長 広岡保明）

〔報告事項〕

1. 2016年度都道府県地域連携組織・連合地域連携組織活動報告について、報告書提出の案内を2018年1月より開始予定である。
2. 子宮頸がん検診推進活動支援について
 - ①2017年度の活動支援について
実施内容書類を提出した地域学会へ支援を行うこととし、支援費用については5万円を上限とした。申請件数47件に対し、2017年9月11日現在、支援件数は46件で（実施内容書類提出済み）、1件は実施内容書類の提出待ちである。
 - ②2018年の活動支援について
希望地域は2018年3月末日までに企画書の提出を依頼する予定である。
 - ③細胞診検体定点観測事業について
過去の細胞診定点観測集計結果の論文化作業中。

国際交流委員会（委員長 森谷卓也）

〔報告事項〕

1. 2国間交流
 - ①第17回日韓細胞診合同会議：2017年9月1日（金）～2日（土）（谷山委員）
会議運営費などの一助として本学会より例年どおり30万円が拠金された（詳細はイエローページ等で報告する予定）。
 - ②第25回日・タイ細胞診ワークショップ：2018年1月17日（水）～19日（金）にチェンマイで開催予定。
 - ③日中交流について、第56回日本臨床細胞学会秋季大会時に交渉を計画中（唐幹事）。
 - ④カンボジアからの学術集会への定期的な招請について2018年度、2019年度の予算案を策定した。2017年度については第56回日本臨床細胞学会秋季大会の加来会長と調整済み。
2. 国際・アジアフォーラム
 - ①第56回日本臨床細胞学会秋期大会（会長 加来恒壽）
開催日：2017年11月18日（土）～19日（日） 開催地：福岡
国際・アジアフォーラム（Global Asia Forum） 担当：南部委員
 - ②第59回日本臨床細胞学会総会春期大会（会長 斎藤豪）
開催日：2018年6月1日（金）～3日（日） 開催地：札幌
国際・アジアフォーラム（Global Asia Forum） 担当：細根委員、片山委員
3. その他
第41回欧州細胞学会議（2018年6月10日（日）～14日（木）、スペイン、マドリッド）におけるCompanion Meetingへの招請があり、甲状腺（廣川委員より）及び子宮内膜（平井康夫先生）のセッションをそれぞれ提出した。

制度審議委員会（委員長 川本雅司）

〔報告事項〕

1. 「審議事項」各項についてメール会議を行った。
2. 各種セミナー・ワークショップ・試験等の慰労会開催についてメール会議を行った（計理案）。
3. 各委員会内規のとりまとめを行い、内規・申し合せ集の最新版（案）を作成した。

〔審議事項〕

1. 総務委員会審議事項「5. 公益社団法人日本臨床細胞学会ロゴ使用許可申請書（案）」・「6. 症例報告における患者情報保護に関する指針の改定案」、計理委員会審議事項「1. 学術集会収支報告に関する施行細則の改定案・学術集会に関する大会計理マニュアル（案）」、細胞診専門医委員会審議事項「3. 細胞診専門医資格認定試験施行細則の改定案」、学術委員会審議事項「1. 班研究課題選考に関する施行細則の改定案」・「2. 学術集会のあり方・申し合わせ（案）」について、それぞれの審議結果を再確認した。
2. 内規・申合せ改定について

制度審議委員会の資料を各委員会で確認し、今回の理事会で全て新しく改定することが可決された。

医療安全委員会（委員長 藤井多久磨）

〔報告事項〕

1. 第56回日本臨床細胞学会秋期大会にて、感染対策セミナー「病理検査業務における感染対策の理念と実際」（高田徹 教授）を行う予定。

倫理委員会（委員長 伊藤潔）

〔報告事項〕

1. 第56回（2017年）秋期大会では、倫理委員会指定セミナーとして、東北大学大学院医学系研究科 医療倫理学分野の浅井篤教授による講演「医療倫理の基本」を予定している。
2. 第59回（2018年）春期大会で倫理委員会指定セミナーの開催を予定しており、演者を検討中である。
3. 日本医学会連合研究倫理委員会からの提言について
日本医学会連合・研究倫理委員会委員長より「提言 わが国の医学研究者倫理に関する現状分析と信頼回復へ向けて」の最終版が各学会に届いたことを受け、日本臨床細胞学会としてどのように扱えば良いのか、また、学会の運営にどのように反映させたら良いのかなど、倫理委員会として検討していくことになり、メール審議により意見を取りまとめた。
4. 倫理指針の改定に伴い、日本臨床細胞学会における学術集会での演題の受付・査読にあたって、倫理的配慮の取り扱いについて検討していく必要があるのではないか—今後の検討課題とした。

〔審議事項〕

1. 日本医学会連合研究倫理委員会からの提言への対応について

倫理委員会で取りまとめられた意見が可決された。詳細は以下の通り。

- ・臨床細胞学会として対応しなければならなくなる部分（具体的には提言⑤⑥）を具体的に視野におさめ検討する必要があるが、この提言では⑤⑥に関する部分につき、具体的な姿がほとんど見えてこないという問題がある。また、早急かつ積極的に対応が迫られることになってしまっている学会を中心に何らかの動きがあると考えられる。そこで、臨床細胞学会では、それらの学会の動向をみて、少し時間をかけて今後の具体的な方針を検討するのがよい。
- ・提言は、一般社団法人日本医学会連合から加盟学会および医学研究者に向けての提言なので、本学会会員に公表した方がよい。その時期・内容・方法については検討の必要があるが、少なくとも抽象的に「本課題については検討中である」程度のコメントは、早めに流すのがよい。

「この内容を学術集会における研究倫理セミナーでとりあげること」で対応することや対応を考えることは可能と考えられるが、全体の動向を見る必要がある。

利益相反委員会（委員長 板持広明）

〔報告事項〕

1. 2017年度から新たに就任した役員及び倫理委員会委員、新利益相反委員の利益相反自己申告書を送付し、回収した。
2. 「細胞診断学に関連する医学研究の利益相反に関する指針」、「細胞診断学に関連する医学研究の、利益相反に関する指針の施行細則」および「利益相反自己申告書（様式1～3）」の改訂をしていく。

臨床試験審査委員会（委員長 前田一郎）

〔報告事項〕

1. 臨床試験審査を随時行っていく。

IAC連絡委員会（委員長 長村義之）

〔報告事項〕

1. FIAC, MIAC, CTIACへのActa CytologicaのIF奪還署名活動を依頼した。Karger社が行ったIACメンバーを対象とした署名活動は、予定よりかなり早く目標の1000を達成できた。日本からも多くの署名が送られた。御礼を申し上げたい。10月にKarger社が、IF担当のClarivate社とActa CytologicaのIFについて話し合う予定。なるべく早いIF奪還を期待している。
2. Cytotechnologists, CytopathologistsのIAC試験の施行（試験日：2017年6月25日）。

3. 第20回国際細胞学会ICC 2019はシドニーで2019年5月5日（日）～10日（金）に開催。
4. ICC 2019バナーを日本臨床細胞学会ホームページに掲載した。
5. 2018年3月17日（土）～23日（金）にカナダVancouverで開催されるUS-Canada IAP (USCAP) 期間中の3月18日（日）1:30pm - 5:00 pmに初めてIAC Companion Meetingが開催される。USCAPにご出席の方には是非ご参加頂きたい。
<https://www.uscap.org/meetings/detail/2018-annual-meeting/> で詳細をご覧頂きたい。
6. 41st European Congress of Cytology (ECC)は2018年6月10日（日）～14日（木）にスペインのMadridで開催される。
<http://www.cytology2018.com/scientific-information/themes-and-topics/>
7. 1957年にIACが発足し、今年は60周年にあたる。Acta Cytologicaの60周年記念号が発刊された。

臨床試験ワーキンググループ（委員長 寺本勝寛）

〔報告事項〕

1. 「一般住民を対象とした子宮頸がん検診における液状化検体細胞診とHPV DNA検査との併用法の有用性を評価する前向き無作為化比較研究(CITRUS study)」(山梨県、千葉県柏市)
 - ①2017年度の検診予定者に勸奨葉書を発送した。
 - ②2017年10月、山梨県、千葉県柏市にて中間報告会を開催した。
 - ③英文誌に論文（基礎編）を投稿し掲載された。
2. 「子宮頸癌疑い患者及び検診受診者を対象としたLC-1000の有用性に関する臨床試験」は、2017年9月に登録終了した。

細胞診専門医制度改革推進ワーキンググループ（委員長 植田政嗣）

〔報告事項〕

1. 2017年度の教育研修指導医新規申請を実施した。後日審査会を行う予定。

肺がん学会とのワーキンググループ（委員長 渋谷潔 代理 佐藤之俊）

〔報告事項〕

1. 追加メンバーに関して
2016年12月に喀痰細胞診による肺癌検診小委員会は解散した為、このメンバーであった齋藤泰紀先生、柴光年先生、佐藤之俊先生にも日本臨床細胞学会からのメンバーとして加わって頂くことになった。
2. 標準化細胞プレパラート保管並びに貸し出しに関して
保管は宮城県対がん協会、貸出期間は1か月以内、バラバラの貸し出しは行わない、セットでの貸し出しとする。宮城県対がん協会依頼書を作成した。
3. 標準化細胞プレパラートを用いた教育システムに関して

2017年3月11日・12日開催の第73回細胞検査士ワークショップ（成田市）では連絡不足にてすべてを使うことはできなかった。2017年7月の福島のワークショップではすべて使用可能となった。作成した内規を学会HPに載せて頂く。

4. 標準化細胞プレパラートのデジタル化に向けて

浜松フォトニクス担当者にお願ひし、nanozoomerを用いたデータ保存を行っている。

5. 肺癌検診での喀痰細胞診に関する地域・施設による診断率の差に関する検討について
日本対がん協会からの検診結果データの閲覧など行った。今後、厚生労働省の斎藤班の結果を待って、データを公表する都道府県が出れば、これを確認したい。

6. 機械学習、人工知能を利用した細胞診断支援システムの研究について

サイバネットシステム株式会社による内視鏡診断支援システム、NECによる病理画像解析ソフトの紹介と各会社との面談経過について紹介があった。その後、AIを活用した喀痰スクリーニングに関して、今後、両学会からのAMED申請なども議論された。

7. 次回秋の委員会は秋の臨床細胞学会（福岡）ではなく適当な土曜日を委員長が決め東京の肺癌学会事務局あるいは臨床細胞学会事務局で開催する予定とする。

ゲノム診療時代における細胞診のあり方検討ワーキンググループ（委員長 森井英一）

〔報告事項〕

1. ゲノム医療がスタートするにあたり、委員間で細胞診として何をすべきか検討し、種々の方法が混在するセルブロック法についてDNA、RNAの品質という観点で比較すること、および液状細胞診検体におけるDNA、RNAの品質検討を行うこととした。今後、活動について予算化する方針であることも報告された。

その他の審議・報告事項

1. 第61回（2020年）春期大会会長選出について

大会会長選出メンバーは以下のとおり。

理事長 青木大輔

副理事長 加来恒壽、植田政嗣、佐藤之俊、内藤善哉

学術委員会委員長 中村直哉

（役員等選任に関する施行細則第2条より）

内藤善哉 理事は欠席で、大会会長立候補者は退席したうえで審議が行われた。審議の結果、佐藤之俊 理事が全員一致で大会会長に選出された。パシフィコ横浜で開催予定。

2. 2019年度・2020年度、評議員選挙について

委員長を植田政嗣 副理事長とする評議員選出委員会（案）、スケジュール（案）の内容が説明され、これらの案が可決された。評議員数に関して2018年4月1日時点の正会員数の8%

までであること、評議員資格に関して2017年12月31日時点で正会員であることの報告も行われた。

3. 会費滞納者について

会費滞納者名簿の報告が行われた。対象者に会費滞納者である旨の声掛けを行って、滞納を解消することが奨励された。

4. 会員資格喪失者の会員資格復帰について

復会希望者が6名おり、いずれも滞納会費の完払と理事長の承諾という内規上の基準を満たしており、希望者全員の復会が承認された。

以上をもって本理事会の議題が終了し、2017年度第3回理事会を終了した。

2018年 / 月 / 日

この議事録が正確であることを証します。


理事長

青木 大輔 

監事

佐々木 寛 

監事

土屋 真一 

監事

長谷川 壽彦 